



ワ
ル
フ
コ
ー
ル
ド
氏
惣
督
カ
フ
ロ
ン
氏
ニ
送
リ
タ
ル
蝦
島
巡
廻
ノ
報
知



414
A3876

大正官

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



於日本東京一千八百七十二一年第一月五日

察者ホラースカプロン閣下ニ呈ス

一千八百七十一年第九月二十七日余閣下ノ命ヲ奉

シ蝦夷嶋中ヲ巡經為シタル各地ノ図面一片札縄府

ノ小図并ニ新都府（札縄ヲ云フカ）ノ近傍ニアル村落数ヶノ

位置及其ノ周圍ノ国邑ノ形况風土ノ大方ヲ記載為

シタル図面ヲ副ヘ其ノ監査為シタル諸件ヲ左ニ陳

述ス

大正官

此ノ巡徑監査ノ大旨趣ハ蝦州ノ一部則チ函港以北
札繩府マテノ一般ノ形況風土ニ注意シ公道ノ造築
及ヒ海岸市街ヨリ内地ノ通路ヲ開設為ス等ノ便
方ヲ詳細ニ監査スルニ在ルヲ余ハ能ク了知為シ
タリ

閣下ハ札繩并其周圍ニ於テ湊港ニ近ク海運陸送ニ
便ナル都府ト定ムベキ要地并ニ兩処ノ中間
及ヒ其ノ近傍ノ国邑ノ情態ヲ密ニ監査為スヲ殊

都府湊港ヲ云フカ

ニ冀望セララル、一ヲ察知セリ而シテ此監査ハ至大
ナル国益ヲ生スル_一ニ於テハ更ニ精疑ヲ容ルヘカ
ラスト重氏其ノ方法ハ先見ニ任シテ輕忽ニ經過為
スベカラス必ス實地ヲ涉獵シ以テ通路ヲ開キ羈旅
并運輸ニ尤モ便ナルベキ充分ノ探索ヲ為スヲ以テ
一大眼目ナリト思ヘリ

此、ニ於テ函港ト札繩トノ間ニアル各所ノ監査ハ
現ニ至要ナラザルヲ以テ大學頭「エンテイセル」氏ト

分訣し「スカヤ」ヨリ「ウラルカン」湾ノ渙村ナル佐原ニ
向テ上途シ夫レヨリ小サキ帆船ニ駕シ室蘭ニ至リ
此ノ地ヨリ馬ニ騎シ尤モ未泯多キ径路ヲ通過為シ
以テ札幌府ニ至レリ

函港札幌ノ中間ニ在ル各地ノ検査ヲ為ス企アルニ
於テハ札幌ニ到着セザルノ前ハ氣候ニ後シ降雨積
雪ノ為メニ郊原ヲ作ユヲ妨ケ且ツ此ノ地方固有ノ
性質太甚困難ニシテ限レル時間ニ之レヲ検査為シ

能ハザルトテ恐レ速ニ此ノ行ヲ決定為シタリ此ノ
ハ大學頭「エンテイセル」氏札幌府ニ到着為スヲ遅延
為シタルヲ以テ意外ニ地方ヲ詳細ニ監査為スヲ
得タリ

札幌及ヒ其ノ周圍ノ地方ヲ書記為スノ前ハ函港及
ヒ都府ノ間ニアル地勢ノ大体ヲ書記為スヲ以テ至
要ト思ヘリ是レ情態ヲ至細ニ察シ巡徑監査ノ成功
ヲ著示センガ為メナリ

函港ヨリツ^ツガ^ツノ海峡ヲ通過為シ東方ニ向ツテ
 汐首ニ達スルノ海岸ハ大凡十マイルス^{我四里半}ノ道
 程ニシテ其ノ海濱ハ連綿タル砂濱ニシテ疊層ナル
 粘土溪岩ヲ背ニス而シテ其ノ溪岩ハ内地ノ山根ニ
 因テ狹隘ノ形態ヲ成セリ又々瀬戸ニ近ツクニ後ヒ
 逐次ニ平地ニ低下為シ^{汐首}ヨリ西方ニ延伸シ半バ
 函港灣ヲ巡^ツケリ以テ新月状ヲ成セリ
 此ノ平原ヲ通過為シテ瀬戸ニ流下為ス処ノ數個ノ

水線ハ繁殖為シタル草蕪ノ為ノニ其ノ表面ヲ覆レ
 タリ又々海濱ヨリシテ此ノ地ヲ望ニ於テハ尤モ廣
 大ニシテ山海間ノ一大勝地ト想想セリ
 汐首^ツヨリ影山岬ニ至ルノ中間ハ甚々天嶮ノ地ニシ
 テ海岸ハ都ヘテ高キ崑岩ヲ以テ積累為シタリ又々
 數條ノ小河ハ丘陵ヨリ流下シ狹隘ナルト蚩氏豊饒
 ナル溪間ヲ通過為セリ故ニ此ノ土壤ハ耕耘ニ應ス
 ベキ地味ナルヲ以テ青菜ヲ培植シ魚肉ニ加ルニ於

テハ海濱ニアル漁村數個ノ賤民等ノ飲食ニ供スル
ヲ得ベシ

此ノ半島ノ南面ハ其ノ北面ニ比較為スルハ大ナル
異殊アリ

エドモ灣

（地圖ニ「ウラルカン灣」ト記セリ）

ニ面シテハ噴火山ノ如キ岩

石アリ其ノ他ハ累々タル巨石峻岩水涯ニ低レ石壁
ヲ設クルガ如シ而シテ西北ニ竝ヒ樹水ノ繁茂セル
累山ノ断処ヲ下流為ス一個ノ水條ハ則チ此ノ半島

ヲ思スル地ナリ

此半島ノ南面ニ於テツノグワノ瀬戸ニ面シタル小
山ハ草卉繁茂為スト虫モ更ニ樹木ノアルヲ無シ
此ノ下流ハ直流為サスシテ些カ屈曲為スヲ以テ屢
々溢流シ之レカ為メ多ク支流ヲ生スルニ至レリ而
シテ此ノ諸山ノ高嶺ハ千八百尺乃至二十尺ニ過ク
ルハ稀レナリ

影山ノ噴火山ヲ過キタル後チ半島ノ東隅ニ方ツテ

火氣ヲ含ム壙坑アリ此ニ於テ影山ト名クル岬ヲ成ス

此ノ地ハ山丘海濱共ニ難嶮ニシテ其ノ陸路ハ假令行歩為スト虽氏續イテ来往為ス能ワス

此ノ難嶮ノ地ハ直線大凡ソ七マイル半許ニシテ石壁岩屏人煙ノ住スル無シ故ニ路ヲ水路ニ求ムルノ

外カ他ナカルベシ余カ此ノ地ヲ航スルニ方ツテハ十六個ノ橈ヲ用ヒ又々其ノ舟舶ハ成ルヘク岸崖ニ

近キ掩覆ノ地ニ繫纜為シタリ而シテ其ノ地ハ濃緑

紅ナル高廿數百尺ノ圓柱形ノ燒石水岸ニ屹立シ其

ノ石根ハ波濤ノ為メ常ニ雷響ヲ為シタリ今々此ノ

地形ヲ概見為スニ他ニ比較為スニ於テハ大ニ殊異

アルト虽氏目撃為ス外ノ樹木ハ少シク要用ニ供ス

ルニ足ル如トシト虽氏畢竟燃薪ニ用エルノ外カ他

ナカルベシ

層々タル山間ニ於テ西側樹根斜坡ニ因テ狭ク畏セ

ラレタル富饒ノ平地數個アリ流水ハ溪間ヨリ湧出
シ其ノ水岸ニ多少ノ樹木繁茂為セリ

此ノ半島ハ累岩層山ノ為メニ障ヘラレ經過為シタ
ル平地ノ監査ヲ多ク妨碍為シタリ

此ノ諸山ニハ數個ノ支路存在為スニ因テ將來公道
ヲ開設為スニ當ツテ大ヒナル夙助ヲ為スベシ

山間ノ徑路ハ間々山腹ヲ断面シ幾多ノ遠距離ヲ徑
過為シタル後テ遂ニ平坦ノ地ニ達スルコトアリ而シ

テ其ノ徑路ハ將來其ノ山嶺ヲ徑越為サシムル為メ
ニ設クル公道ノ大ヒナル夙助ヲ為スベシ

上欠ニ記載為シタル條件ハ現ニ「函港」ニ於テ施行為
スコトヲ得ベシ若何トナレハ「エドモ濟」ノ南岸ナル村
落ニ在ル所ノ徑路ハ則チ「函港」ニ達スルガ故ナリ假
言ハ「大野」ノ山間ヲ經テ「佐原」ニ達スルガ如トシ

此ノ地ハ夏秋ノ間在市ノ為メニ旅客ノ來往為ス要
地ナルヲ以テ宜シク「函港」ト「佐原」トノ中間ニ於テ一

條ノ公道ヲ設作為スヲ以テ尤モ緊要ト為ス而シテ
此ノ地ニ公道ヲ設クルハ尤モ至要ナルヲ以テ慥ニ報
知為スヲ得ベク其ノ他ノ諸作ニ於テハ此ノ半島
ヲ悉シク監査為ス能ワルガ故ニ確然ト此ニ報
知為スヲ得ス

室蘭港ノ形状ヲ概言為スニ此ノ湾内ハ自然ニ廣闊
ナルガ故ニ術家者流ノ語ヲ以テ之レヲ評スルニ於
テハ「エドモ湾ハマジヨールバルト」(最上部分)ト為ス而シ

テ「室蘭港ハ」エドモ湾ノ東北ニシテ此ノ嶋中ノ各溪
港ニ比較為スニ於テハ其ノ海岸ノ道程尤モ長量ナ
ルト云フベシ此ノ「エドモ湾」ノ事ニ於テ此ノ一言ヲ
記載為スノ外カ他ニ贅言スルヲナカルベシ而シテ
近歳ハ巨船大艦ヲ製造為スニ因テ其ノ噸數及ヒ水
入モ亦タ随ツテ増加為シ千五六百ヨリ五六千噸ニ
及ベリ然レモ此ノ湾内ハ于潮ト魚尾水入二十五尺
ノ巨艦ヲ滯泊為サシムルヲ得ベシ此ヲ以テ如

何ナル巨船大艦ト虫モ自由ニ此ノ湾内ニ投錨為ス
ヲ得ベシ又此ノ湾内ハ四時巨船大艦ヲシテ陸岸
ニ近ツキ投錨為サシムベク且ツ陸地ヲ以テ港口ヲ
封鎖為シタル如クナレハ安全ニ滞泊為スヲ得ベ
シ而シテ此ノ湊港ニ近接セル地ハ多ク膾土ニシテ
丘岡多シト虫氏水利ノ便ナルヲ以テ樹木モ亦夕繁
茂為シタリ故ニ此ノ小流ノ側傍ニ於テ培土ノ勞ヲ
拏カセハ之レニ酬ルノ功績ヲ見ルヲ得ベシ而シ

テ此ノ近傍ノ地味ヲ考ルニ「エドモ湾」ノ西方ニ向リ
テ進歩為スニ從カテ膏腴ノ地多カルベシ殊ニ此ノ
湊港（室蘭）ヨリ二十五マイル許灣ニ入り「十ロベツ」
川ノ近傍ハ廣大ナル「平野」ニシテ其ノ地味ハ多ク膏
腴富饒ト思ヘリ故ニ将来新都府盛大ニ闢化為スニ
從ヒ此ノ室蘭港ハ在市ノ為ノニモ肝要ナル地ト云
フベシ現ニ「エドモ湾」ノ周圍及ヒ其ノ東北「エドモ岬」
ニ至ルマテ大平海ノ沿岸ニ於テ各處ニ家屋ヲ經營

為スモノ多キヲ以テ證ト為スベシ而シテ「室蘭港」ヨ
リ「札幌」府ニ至ルベキ道程ハ此ノ書ニ副ヘタル地圖
ニ因テ明了ナルベシ

「室蘭」港ヲ高レタル後チ東北「勇拂」川ノ河口ニ至ルマ
デ大平海ノ沿岸ヲ通過為シ西方ニ向カワテ屈曲為
シタル内地ヲ徑以テ「札幌」府ニ達スルヲ得ベシ

「室蘭」ノ港口ヨリ「勇拂」川ニ至ルマテ其ノ間ノ地形風
土ヲ概記為スニ此ノ地ハ海濱ノ平行線ニシテ狹隘

ナル平原ナリ而シテ「勇拂」川ノ平野ニ擴延為レタル
累嶽ノ支山ヲ越ヘ一マイル此ヨリ三マイル此ノ間ニ於
テ其ノ地形ヲ變換為セリ此ノ平野ヲ平均為スニ於
テハ大凡海面ヨリ三十尺高ク又チ大洋ヘ流下為ス
支流モ數多ナルガ故ニ充分水氣ヲ含メル地ト云フ
ベシ

此ノ數條ノ支流ハ山嶺ヨリ海面ニ直流為サズ
ニ長ク斜メニ低下為シタル溪谷ノ間ヲ經過シ西南

ヨリ東北ニ流下セリ

此ノ各支流多クハ四時充分ナル水ヲ下流為セリ此
ニ於テ考ルニ暴雨及ヒ山嶺ノ積雪溶解為スニ於
テハ其ノ水勢尤モ膨脹為スニシト思ヘリ而シテ其
ノ水流ハ甚ク急ニシテ殊ニ河口ニ三角形ノ障碍物
夥多ナルガ故ニ假令小距離ノ地ト虽モ船舶ヲ以テ
通過為ス能クザルベシ

此ノ支流中其ノ尤モ大イナル流ニ於テハ鮭魚ヲ漁
獵スルトテ得ベシ又タ此ノ川岸ニ沿フテハマイル
乃至十マイル進歩為シタル地ニ於テハ至大ナル松
ノ良材多キトテ土人(乃チ蝦夷人)ニ聞知為シタリ

室蘭港ヨリ「勇拂川」ニ至ルマテ其ノ中間ノ地形ハ家
屋ヲ經營為シ農漢ヲシテ住サレムルニ便ナル地ト
云フベシ而シテ其ノ地味ハ沙石多シト虽モ之レヲ
開墾為シ耕耘ノ等ヲ闢クニ於テハ必ス期シテ功績
ヲ奏スルトテ得ヘシ若何トナレハ此ノ地ハ燃薪ニ

用ユル樹木及ヒ清潔ナル冷水ニ乏シカラス只夏候ノ際土人ヲシテ爽然健康ナラシムルノ勝地トスラガルノミ而シテ現今此ノ山谿ノ地ヲ開キ人煙稠密稠為サレムルニ於テハ尤モ緊要ニシテ實ニ一驚ヲ喫スルノ美事ト云フベシ

「勇拂」ト「札纒」トノ中間ノ地方ハ滿眼都ヘテ巨樹ニシテ枝葉繁茂為シ之レカ為メ滿地ヲ掩ワル、ガ如シ而シテ諸人ノ能ク聞知為ス蝦州中第一ノ平坦ナル

郊野ハ則チ「勇拂川」ト尤モ艶粧ナル「石狩川」トヲ分界為ス地ニシテ其ノ地形ハ太甚タ低ク「ブッブ」及ヒ「トイユ」ノ水源ニ分入為ス一五マイルニ過キス而シテ此ノ「ブッブ」ハ則チ「勇拂川」ノ水源ニシテ其ノ末流ハ東太平洋海ニ流レ又タ「ストイユ」ハ則チ「石狩川」ノ水源ニシテ其ノ末流ハ西日本海ニ下流ス此ノ「勇拂川」ト「石狩川」トヲ全ク分界為ス丘陵ハ此ノ兩大川ノ水流ヲ東西ニ分界為シ得ヘキ高量ナラス

而レテ此西大川ノ中幅ハ至大ナルト虽且波濤常ニ
穩和ニシテ又夕河畔ノ樹木繁茂為シ尤モ水利ニ便
ナル地ト云フベシ

此ノ地ノ形況ハ殊ニ此ノ分水界ノ西方ノ斜坡及ヒ
平坦ノ郊野ニ於テ見ルベシ若何トナレハ此ノ地ニ
繁殖セル許多ノ樹木ハ満面都ヘテ濃緑ヲ粧スル如
クニシテ其ノ樹木ハ尽トテ經營ノ用ニ供レ得ベク
又夕此ノ樹間ヲ経緯為ス河川ハ都ヘテ急流ナラザ

ルハナレ殊ニ各町ニ散在為ス湖池ハ至小ナルト虽
且其ノ水面ハ透明ニシテ更ラニ汚泥ヲ交ヘズ其ノ
他許多ノ布曝中尤モ稀スベキニ至テハ其ノ清明ナ
ル恰モ鵝鳥ノ傲然ト孤立為シタルガ如トシ此ノ如
トク勝景ノ陸續為シタルハ則チ郊原ノ「パノラー」ニ
(全国ヲ見ル)テ為スト云フベシ故ニ此ノ地ヲ概言為スニ
於テハ尤モ富饒ナル勝地ト為スヘシ
此ノ鳴中石狩ノ郊野ニ均レキ現ニ鋤鋤ヲ加ヘザル

原野ニ於テ蝦州ノ一大都府ト定ムベキ適宜ノ勝地
ヲ見ス故ニ此ノ鳴中ノ東岸及ヒ西岸ニ於テ将来ノ
有益ヲ期レテ開墾為スベキ平原ハ「札幌」ノ他無カル
ベシ

此ノ府ハ石狩川ニ水ヲ貢スルトヨヒラ川ノ岸崖ニ
シテ此ノ河水ノ能力ハ他ノ各川ノ遠ク及ハサル処
ナリ故ニ将来此ノ市街ノ開化ニ從カヒ製造場モ亦
夕自ラ盛大ナルニ至ルベシ故ニ「トヨヒラ」川ノ岸崖

ニ製造場ヲ設作為スニ於テハ日ナラスレテ此ノ新

都府

(札幌ヲ指ス類)

ノ近傍ハ是トク漁獵ニ因テ得ル利潤ヨ

リ遙ニ勝リタル商法ヲ得ルニ至ルニシテ此ノ岸ニ方
ツテ諸民等ハ必ス甘レテ此ノ地ニ移轉為ス「ト」ヲ冀
望為スニシテ故ニ此ノ地ハ現ニ叢々タル森林ナルト
雖日ナラスレテ移民經營ノ為メニ伐尽セラレ漠
タル平原ト變スニシテ而シテ其ノ平原モ亦必速ニ此
ノ地ニ産スル物品ノ為メニ要用ヲ為スニ至ルベシ

若何トナレハ此ノ地ハ生養ノ為メニ尤モ適宜ナレ
ガナリ

将来此ノ都府ノ開化ニ隨ヒ無算ノ村落市街盛昌ナ
ルニ方ヲテハ必ス深山幽谷ノ樹木ト虽モ尽トク伐
採セラル、ニ至ルベシ此ノ時仁惠ナル造物見ノ配
割ニ因テ此ノ嶋中他ノ部落ニ於テ子孫ノ要用ニ供
スル為メ貯蓄ナレタル無数ノ石炭ヲ得ベシ請フ者
ヨ大貌利太臣亞国ノ歐洲ニ於テ富国ト稱セラル、

ノ根柢ハ此ノ一物ノ外力他ニ从助アルニアラザル
ナリ又々我カ合衆国今々地球上各強国ト共ニ現在
為ス知ノ根柢モ亦々坑墾ヨリ産スル諸物品中此ノ
一物ノ从助ヨリ大ナルハナシ

概言為スニ「石狩」ノ平原ハ將來必ス人煙ノ稍密為シ
大ニ有益トナルヘキ地形ト思ヘリ又々札幌府ノ近
傍ハ他ニ比較為ス能ワザル流水ノ能カラ存在為シ
且ツ日本海ト大平海トノ中央ニ位シ海濱ヨリ海濱

ニ達スル至大ノ平原ハ暖帯ノ線下四十二緯度ノ平
行線ノ少シク北方ニ在リテ其ノ氣候尤モ適宜ナル
ガ故ニ人跡ヲシテ健康ニシ智カヲシテ充分ニ働作
為サシムルヲ得ベシ故ニ此ノ地ハ將來嶋中ノ諸
物産及ヒ諸製造ノ輻湊為ス大都會ヲ開クニ至ルベ
シ余地圖ニ因テ考ルニ暖帯中四十二緯度ノ線下ニ
占位為シタル土地ハ必ス耕耘ノ勞ニ因テ地品ヲ充
分ニ産出為サシムル中央ノ勝地ナルヲ期セリ此

ノ他「札幌」府ノ北方ニ当リタル一大平原モ亦々同シ
カルベシ見ルベシ歐邏巴亞細亞及ヒ亞墨利加州ニ
於テモ此ノ同緯度下ノ土地ハ必ス諸物ノ産出多ク
シテ日々人口ヲ増シ大ニ國ノ貨殖ヲ為セリ
此ノ諸有益ノ外カ尚ラ便宜ナルハ此ノ平原ヨリ石
狩川ニ達スベキ至近ノ地ハ其ノ距離纔ニ十二マイ
ルニ過キス故ニ此ノ地ニ溝渠ヲ設クルニ於テハ直
チニ之レニ達スルヲ得又々將來航海ヲ企ルニ方

ツテハ此ノ「石狩」川ハ尤モ緊要ナル河流ナルベシ而
シテ此ノ河水ハ水源ヨリ殆ト西南ニ向テ流レ「小樽」
湾ノ西北凡ソ十五マイルニシテ日本海ニ流下為セ
リ又此ノ「石狩」川ノ河口ニアル沙灘上ヲ通過シ得ベ
キ船舶ニ於テハ水ノ高低ニ拘ワラス大凡五十マイ
ル乃至六十マイルノ遠距離ニ達スルヲ得ベシ是
レ余カ現ニ實地ヲ航スル処ナリ且ツ土人ノ言ニ夏
秋ノ候ハ常ニ此ノ沙灘上ニ七尺半ヨリ八尺ノ水ヲ

有シ三春ノ間屢洪水ノ為メニ須臾時間十二尺ヨリ
十四尺ノ水ヲ増シ又夕四時甚雨ノ後ハ此カ水量ヲ
増加為セリ而シテ満潮ノ片ト釜戸河口ニ於テ其ノ
水量ヲ騰スル十八「インチ」ニ過キスト云ヘリ

此ノ河口ノ巾幅ハ大凡半マイルニシテセノ「ロ」ノ河
口ニ至ツテ少レク其ノ幅負テ減シ大凡七百歩ナル
ベシ而シテ此ノ「セノロ」ハ海面ヲ去ルル十マイルニ
シテ一条ノ小分水ナリ其ノ巾幅ハ別チ上ニ記載セ

ル如トシ

此ノ「石狩川」ノ岸崖ノ高量ハ平均十歩ヨリ十二歩ニ
シテ「ストユウ」ノ河口ヨリハ兩岸都ヘテ島中第一ノ
良材タル秦皮樹多シ余思ヘラク全日本国内ニ於テ
此ノ如ク貴價ノ良材繁殖セル地ハ他ニアルヲ無カ
ルベシ

此ノ無數十凡最上ノ秦皮樹ヲ鋸車ニ適スベキ長量
ニ伐リ之レヲ長筏ニ作り以テ河流ヲ下スベシ而シ

テ此ノ業作ハ「セノロ」ノ近傍ニ於テ施行為スヲ以テ
尤モ便宜ト為ス若何トナレハ此ノ地ハ此ノ良材ヲ
斬伐シ以テ日本国内ニ運輸為スニ尤モ便ナル地ナ
レバナリ

此ノ河川ハ十一月ノ中幹ヨリ第四月ノ上流ニ至
ルマテ結氷ノ為メニ船舶ノ運輸ヲ封鎖スベシ

此ノ河川ハ春分満潮ノ時ハ溢水岸ニ上ルベシ又々
東南ニ流下為ス「セノロ」「トヨヒラ」「ストユウ」ノ諸川ニ

於テモ亦々之レト同シカルベシ

此ノ河流ハ谿谷ノ形状ニ因テ大ニ屈曲シ其ノ流レ
ヲシテ減却為サシメリ若シ「ミスシツピ」(亞國ノ河名)河ノ如
トク狭クシテ直流為スニ於テハ水ノ流カ急ニシテ
之レヲ航スルヲ尤モ難カルベシ

「石狩」原野ノ「一」ニ於テ未タ悉記セザルモノアリ是レ
此ノ地ノ各支流ハ却テ源河ノ水面ヨリ透明ナルノ
因概ナリ蓋シ考ルニ此ノ各支流ノ河口ハ他ノ地ヨ

リモ狭ク且ツ此ノ近傍ハ地位ノ直價ヲ減スル沼湖
池泥多キカ故ニ此ノ水底モ必ス沼土ナルヲ以テノ
故ナルベシ

此ノ河岸ノ兩側ハ樹木森茂為スト虫モ或ハ処トシ
テ「ハルレンプレイン」(不毛ノ野)ト云フベキ小地ヲ現ニ
看破為シタリ

此ノ他土人ノ言ニ「石狩」河源ノ近傍ニ於テ大ナル石
炭塚ヲ目撃為セリト恐ラクハ其ノ地ニ於テ建築石

及ヒ石炭石ヲ産出スルヲ得ヘシ若シ来春再ヒ巡
監為ス降ニ当テ實ニ此ノ言ノ如クナルニ於テハ
大ナル裨益ヲ得ベシ若何トナレハ札纒府ノ近傍ニ
於テハ真ノ産石場アラザレハナリ

小樽湾ハ「札纒」府ノ西陸路ハ大丸三十マイル此海路ハ
大丸ソ四十マイル此ノ地ニシテ其ノ湾口ハ東北ニ面
シ太甚々廣闊ナルガ故ニ船艦ハ安シテ滞泊為ス能
ワザルベシ若シ此ノ湾内ニ滞泊為スヲ要スルニ

於テハ宜シク湾ノ北岸下風ノ地ニ於テ投錨為スベ
シ而シテ此ノ地ハ小湾ナルト虽モ其ノ水底尤モ深
クシテ巨船大艦ヲ自由ニ投錨為サシムルヲ得ベ
シ又々此ノ湾内ハ疾風甚雨ト虽モ危難ハ少ナカル
ベシ

此ノ湾内ハ冬ノ候ヨリ夏ノ候ヲ以テ善トス若何
トナレハ第一十一月ノ中幹ヨリ第三月ノ下流或ハ第一
四月ノ上流ニ至ルマテ常ニ西北ノ風多クシテ湾ノ

西岸ニ吹送シ帆船太艦ト虽凡繫泊存ス下難カルベ
ニ今マ試ニ氣候ヲ以テ論スルニ此ノ地ハ低冬ノ間
其ノ寒威最モ酷烈ナルベク又夕地形ヲ以テ論スル
ニ於テハ一個ノ強大國ニ隣スルヲ以テ若シ一朝干
戈ヲ動カスニ当テハ實ニ大ヒナル困難事ヲ生スベ
シ又ツツガロノ海峡及ヒ小樽ノ海濱ニ沿ツテ航海
為スヲ以テ危難ト為スニ於テハ 歳及ヒ少ナクモ
秋冬ノ間通信ヲ絶ヘザラシムル下ハ最モ難カルベ

シ

上文ニ記載為シタル如トクナルカ故ニ各間小樽ヲ
通過為シ札幌府ニ至リ在市為スニ於テハ必ス時期
ヲ限スルナルベシ故ニ此ノ西地間ニ鐵路ヲ設ルハ
現今ノ緊要ナルト虽凡此ノ遠距離ニ設築為スニ於
テハ尤モ多ノ費額ナルカ故ニ假令政府ノ誘導ト
虽凡急ニ成功為スベカラス若何トナレハ其ノ地形
尤モ不良ニシテ殊ニ遠距離ナレハナリ

此ノ地ノ民家ハ些カ内地ニ班在為スノミニシテ其
ノ他ハ尽トク海濱ノ漁家ナラザレハナシ

此ノ地ノ海濱ニ於テ多ク産スル市買物ハ昆布獸皮
其ノ他魚類ノミ故ニ此ノ鳴中ノ貢税及ヒ利潤ハ其
ノ良善ナル鮭鱈鯡其ノ他各種ノ小魚及ヒ昆布ニ因
テ産出為スベシ

此ノ鳴中在市ニ便ナルノ地ハ西「小樽」湾東「室蘭」港ナ
ルベシ若何トナレハ「室蘭」ニハ「札幌」府ニ通スベキ第

一ノ驛路ヲ有シ且ツ漁獵ノ船舶及ヒ之レニ要用ナ
ル諸器械ヲ充クニ製造為シ得ベキ勝地ナレバナリ
故ニ此ノ都府ノ領部内ニ於テ裨益ヲ生セサシムル
「」ヲ要スルニ於テハ宜シク西ハ「小樽」東ハ「室蘭」ニ達
スベキ公道ヲ建築為ス類或ハ他ニ通信ニ尤モ勝レ
タル方法ヲ(鐵路又ハ運送車送)求ムベシ而シテ此ノ建築ハ成ル
ベク海濱ニアル家屋及ヒ諸製造場ニ時間ヲ費サス
ニテ達ニ得ベキ要地ヲ選フベシ

抑々開拓ノ大眼目ト為ス処ハ此ノ全權ニ任セラレ
 タル長官日夜心神ヲ此ノ奉ニ注キ毫末モ怠慢惰忽
 ノ心ヲ生セザルニ在リ又々第一ニ設作為スベキモ
 ノハ驛路ノ外ナカルベシ若何トナレハ充分便宜ナ
 ル驛路ヲ設作為サズ漫リニ人民ヲ移轉為サシムル
 一ヲ要スルニ於テハ必ス大ナル妨ケヲ生シ且ツ道
 路ハ開化ヲ進メ及ヒ人民ヲ安居為サシムルノ媒助
 ナレハナリ又々細カニ道路ノ要用ヲ論スルニ於テ

ハ只百功ヲ進ムルノミナラス人寰ニ在テハ吾彼_交
 ヲ睦シ國邦信ヲ通スルノ一小路ニシテ素ト天地间
 人類ノ中間ニハ必ス一個ノ交通線ヲ保持為スモノ
 ナリ此ノ交通線ニ因テ彼我在市ヲ為ス一ヲ得ベシ
 又々萬物ノ倚編ナリ平均ヲ得ルモノハ此ノ在市ノ
 為メニシテ其ノ萬物ノ平均ナルハ則チ文明開化ノ
 階梯ト云フベシ而シテ文明開化ナルニ因テ遂ニ美
 名ヲ歴史ニ垂ル、ニ至ルベシ故ニ道路ハ村落ト市

街トヲ通サレメ以テ一個ノ都府或ハ大街ヲ開クノ
根柢ニシテ之レニ因テ地産ノ物品ヲ輸出為シ之レ
ニ因テ諸物ノ製造ヲ盛大ニ為サシムベシ此、ニ
於テ天然地性ニ適スル諸物産ヲシテ充分ニ輸出為
サレメ以テ開化ノ域ニ至ルヲ得又夕羈旅ニ便ナ
ルニ因テ吾彼ノ文際ヲ親睦ナラシムルヲ得ベシ
此ノ域ニ至ルニ及シテハ百民爭テ此ノ地ニ移轉為
スヲ冀望シ又夕各大強國ニ於テモ尤モ精神ト依

頼為ス百工ノ勉強カヲ充分ニ誘導為シ得ルニ至ル
ベシ

道路ハ文明開化ノ至要ノ器械ニシテ諸物ノ初メニ
設作為スベキモノトス故ニ最一ニ道路ヲ設ケ尋イ
テ製造場及ヒ学校等ヲ建築為スベシ

例言為スニ建國ノ新古ニ拘ワラス其ノ開化ハ必ス
道路ニ依因為スモノトス故ニ此ノ道路ヲ設作為サ
ルニ於テハ則チ開化ノ進歩ヲ屏塞為スト云フヘ

之抑々道路溝渠及鐵路等ノ如トキハ通信及ヒ轉移
 等ニ便ヲ興ヘ至賤極富ニ拘ワラス人類ヲニテ開化
 ノ域ニ進マシムル尤モ緊要ナル一大尤物ナリ
 道路ヲ充分ニ設作為スニ於テハ假令遠距離ヲ隔タ
 ル僻土及ヒ至隅ノ地ト虽モ百物ノ運輸便ニシテ其
 ノ冗費モ亦タ随ツテ減スベシ此ノ故ニ百民其ノ遠
 距離ヲ近シト為スニ至ルベシ
 道路ノ人衆ニ裨益アルヤ至大至要ト云フベシ故ニ

若シ之レヲ開設セザルニ於テハ都府大街ノ億兆等
 ハ尽トク至必要用ナル衣服飲食ニ欠缺為スベシ若
 シハ充分ニ道路ヲ開設為スニ於テハ億兆ノ庶民等
 隅土僻邑ヲ以テ比隣ノ如トクニ思想シ且ツ衣服飲
 食ノ在市モ亦タ之レニ因テ容易ナルコトヲ得ベシ
 人衆至要ノ飲食及ヒ製造場其ノ他家屋ノ經營ニ供
 スル嵩量ノ諸物品ヲ運輸為スニ於テハ其ノ費額夥
 多ナルト虽モ若シ充分ニ道路ヲ開キ運輸ニ便ナラ

シムルニ於テハ其ノ冗費モ亦タ随ツテ減少為スベシ而シテ其ノ冗費減少為スニ於テハ諸物品ノ價直モ亦タ随テ廉ナルベシ諸物價廉ナルニ於テハ輸入ノ物品モ亦タ随テ夥多ナルベシ輸入物夥多ナルガ故ニ都府街下ノ諸民等之レヲ費ス_レ亦モ随テ多カ_ルベシ今マ試ニ假言為ス日本國ニ於テ道路溝渠川河等ヲ封鎖為スニ方ツテハ如何ノ形况ニ至ルベキヤヲ考思スベシ必ス内地ノ通路ヲ封鎖セラレ_レ日

ノ物品ハ各產出場ニ封セラレ_レ都會街下ニ輻湊為シタル庶民等ハ尽トク餒餓為スベシ
 余既ニ公道鐵路溝渠ノ類ハ開化ヲ進ムルノ一大要ナル_レヲ記載為スト_レ蠶_ノ蝦州ニ於テ将来庶民ヲ移居為サシメ盛大ナラシムル_レ処ノ意旨ニ於テハ總カナル隻言ヲ以悉尽為スモノニアラザルナリ
 東京ヨリ札幌府ニ至ルベキ_レ道程ノ比較表
 小樽湾ヨリ石狩川ヲ通過為スニ於テハ其ノ道

程

七百八十マイル

函港ヨリ 佐原室蘭港ヲ通過為スニ於テハ其

ノ道程

六百八十マイル

室蘭港ヨリノ道程

六百三十五マイル

此、ニ記載為シタル比較表ノ如トク 札幌府ニ至ル

ニ小樽湾ヨリ石狩川ニ至リ室蘭道ヲ通過為スニ於

テハ百五十五マイルノ差アリ又々函港ヨリ 佐原ニ

至リ室蘭道ヲ通過為スニ於テハ四十五マイルノ差

アリ

此、ニ於テ考ルニ札幌府ニ至ルハ室蘭港ヲ通過為

スノ外カホタ便道ヲ見ス

此ノ三道中函港ヨリ 佐原及ヒ室蘭港ヲ通過為ス公

道ノ外カハ四時来往為スヲ得ベカラス而シテ此

ノ公道ハ三夏ノ間好天ナルニ於テハ凡ソ八日ノ羈

旅ニシテ達スルヲ得ベシ又但冬ノ候ハ積雪ノ為

メニ障ヘラレ 十二日乃至十四日ノ客旅ニアラザレ

ハ札纜ニ達スルヲ能ワザルベシ

余ハ此ノ陸路ヲ全ク馬ニ騎シ羈旅為シタルガ故ニ
各種寒暖ノ変換ニ遇セリ

小樽湾ノ形况ヲ記載為シタルニ因テ再ヒ考ルニ此ノ道
程ハ夏候ニアラザレハ札纜ニ至ル能ワザルヲ想為
シタリ故ニ此ノ公道ヲ設作為スニ方ツテハ宜シク夏候
ノ羈旅ニ通スル方法ヲ考ルヲ以テ緊要ト為スベシ

此、ニ於テ考ルニ先ツ札纜府ト石狩川ノ線上ニ於

テ成ルベク「セ」ノ「ロ」河口ニ近キ地トノ「甲」間ニ於テ運
送車道ヲ設クルヲ第一ノ費少ク殊ニ速カニ成功為
シ得可シト思ヘリ其ノ後テ此ノ西地間ニ於テ十分
大ナル溝渠ヲ設ケ此ノ渠口ト小樽湾トノ中間ヲ引
キ得ベキ相應ナル船舶ヲ製造為シ此ノ溝中ヲ「フ」リ
「レ」ヘ無税ノ「レ」ニ通過為ス「レ」ヲ許シ以テ諸物品運諭
ノ用ニ供ス可シ

此ノヲ企タル後ヲハ小樽湾ト新溝渠トノ中間ニ

設ケタル船舶ヲ引キ及ヒ其ノ他各種ノ使用ニ供ス
ルノ為メ水入五尺乃至六尺許ノ火船ヲ買ラヌ可シ
而シテ將來驛路便ナルノ後チハ必ス庶民札幌府及
ヒ小樽ノ中間ヲ來往為スモノ多カル可シ故ニ此ノ
火船ハ其旅客ヲ載セ得可キ製造ヲ要ス

セノ口河ノ下ニ就イテ一事ヲ此ニ記載為スニ「セノ
口河ニ於テハ既ニ「サンバン」(日本製船舶)ヲ以テ此
ノ市街ニ達スルヲ得タリ而シテ上文ニ記載為シ

タル小樽湾ト相ヒ通サシムル為メ設クル処ノ公道
及ヒ溝渠ノ成功ノ便宜ヲ得ル為メ來歲夏候ノ前此
ノ航船ノ方法ヲ改正為ス「」ヲ要ス今マ余カ熟思為
スニハ三冬ノ候ト虽トモ通信ヲ絶ヘサラシムル為
メ「錢」ヨリ小樽ニ至リ以テ札幌府ニ達シ得可キ驛
路ヲ設作為シ又札幌府ヨリ石狩ニ至ル「」ヲ要ス
ルニ於テハ宜シク石狩川ノ河口ヨリ其ノ市街ニ至
ルマテ河岸ニ「」ツテ驛路ヲ設ク可シ

東京ヨリ札幌府ニ五市ノ為メ羈旅為スニ於テハ室
蘭港ヲ通過為スヲ以テ至當ト為ス然レトモ将来便
利ヲ考ルニ於テハ宜シク東京ヨリ室蘭港ノ中間ニ
於テ火船ノ来往ヲ定メ其湊港ヨリ此ノ都府ノ中間
ニ鐵路ヲ設ク可シ

蝦地ノ都府ヲ札幌ト定メ此ノ都府ト室蘭港トノ通
信ヲ速ニ開カンコトヲ要スルニ於テハ鐵路ヲ設クル
ノ前へ先ツ此ノ兩地ノ間ニ運送車道ヲ設ク又タ各

川河ニハ永續為シ得可キ橋梁ヲ架シ以テ其ノ来往
ヲ便ナラシムルニ在リ

今マ現ニ緊要ナル土地ノ地勢ヲ檢シ以テ火船ノ来
往ヲ定メ或ハ室蘭港及ヒ札幌府ニ於テ飲食衣服ノ
類ヲ一時貯藏為ス可キ府庫ヲ造築シ又タ道路建築
ノ業作ヲ処置為ス等ニ於テハ大ニ歳ノ免鳥ヲ費
ス可シ此ニ於テ考ルニ此ノ諸業作ヲ嚴ニ施行為シ
タル後テ大ニ歳ノ間ニハ必ス其中幅三尺一イニ

チナル最一鐵路ノ造築モ亦夕落成シ以テ大ナル互
市ヲ開クヲ得ヘシ

上文ニ記載為シタル諸道ニ欠ク可カラサル運送車
道ヲ充分ニ建築為シタル後チハ此ノ車道ハ漸次ニ
最一ナル馬車道ニ變換為ス可シ而シテ此ノ馬車一
字間毎トニ九里ノ道程ヲ走行為スニ於テハ良善ナ
ル車道ヲ造築シ十里毎ニ換馬及ヒ土地ニ産スル
秣ヲ備フ可シ) 旅客ヲシテ室蘭港ヲ去ルノ後チ九

字間ニシテ札幌府ニ達スルヲ得サシム可シ或シ
テ四時此ノ札幌府ニ來往為シ得可キ方法ハ則チ道
路ニ依^賴為スモノナルカ故ニ余カ強イテ説諭為ス
処ハ來歲夏候ニ方リテ此ノ運送車道ノ建築ヲ初メ
得ヘキ準備ヲ為スヲ要ス
既ニ上文ニ記載為シタル運送車道或ハ馬車道ニ因
ツテ大ナル裨益ヲ生スル所以ノモノハ則チ札幌府
ノ互市ノ盛大ナルニ関セリ

此ノ地方ニ於テハ家屋建築ノ石ニ欠乏為スカ故ニ
樹木ヲ以テ之ヲ換フ可シ又タ橋梁及ヒ弓形門ノ如
キモ假ニ樹木ヲ以テ造築ノ用ニ供シ遂ニハ之レ
ヲ石ニ換ルヲ要ス

札舘府ハ四達且殆ト平坦ニシテ殊ニ水道ノ分理ニ
便ナル地ナリ

札舘府ノ道路ヲ補理為スニ於テハ宜シク此ノ都府
ノ後面ニアルトヨヒラ川ノ水底ニ尤モ多ク此ノ沙

石ヲ用ユ可シ而シテ此ノ峯ヲ企ルノ前へ道路正
直ヲ平坦ニ為シ地形ニ因テ自然ノ高低ヲ定メ潦水
ヲシテ市外ノ大溝渠ニ分理為ナシムル為メ適宜ノ
樋ヲ設クルヲ要ス

此ノ市街上ニハ亞州ノ風習ニ從ヒ左右ニ敷石ヲ設
クルヲ要ス是レ正シキ地圖ニ因テ考ルニ此ノ敷石
ノ峯ハ札舘ノ地形及ヒ季候ニ應ス可シト思ヘリ
此一府下及ヒ小徑ノ溝渠ニ橋梁ヲ架スルニ於

運送車及ヒ馬車ノ通過為シ得可キ造築ヲ要ス

此ノ溝渠ノ高处ハ「ロモ」河ノ低处ト一直線ニシ
テ此ノ市街ヲ流通為ス長量ハ九二十五尺又夕其勾
配ハ九ソ一尺ナル可シ

余カ此書ニ副ヘタル正圖ニ熟見為スニ於テハ此ノ
市街ノ戸数及ヒ其ノ位置其ノ他政廳ノ為メニ除キ
タル公地等ヲ知ルニ足ル可シ

此ノ市街ノ背後ニアルトヨヒラ「河」橋梁ニ保ス

トヲ要ス

文明國人ノ能ク覺知為セル諸搖働物中ニ於テ水流
ナル者ハ之レヲ用エルト安クシテ其ノ功ヲ奏スル
ハ却ツテ大ナリトス故ニ此ノ「トヨセラ」川ハ活絶ノ
患アラサルニ於テハ尤モ秀タル水流ト云フ可シ又
夕札鯉府ノ近傍ニ於テ製造場及ヒ水車ノ為メニ尤
モ便宜ナルニ流ヲ見タリ其ノ一流ハ則チ此ノ府ノ
北九ソ一マイル許ニシテ「ツ」川札鯉川ニ下流為ス

溝渠ノ口ニアリテ常ニ諸物ノ製造ニ適ス可キ水量
ヲ有レ且ツ其勾配ハ十五尺ニ劣ル可カラス又々他
ノ一流ハ此ノ府ノ南凡ソニマイル半許ノ地ニシテ
「レコーン」河ノ近傍ニアリテ其ノ勾配ハ常ニ十
二尺許ナリ故ニ其ノ水量ハ前條ニ記シタル水流ニ
齊カラスト魚トモ其勾配ハ十五尺許ニ増加為スト
ヲ得可シ

平原ニ脈在為ス小支流ノ方向位置ノ如トキハ此

四通ナルカ故ニ此書ニ副ヘタル正圖ニ因テ推考為
ス中ハ却ツテ楮面ニ記セルヨリ悉シク知ルニ足ル
可シ

将来ノ監査ニハ札幌ノ地方ニ於テ開墾ニ必用ナル
建造石及石灰石ヲ探出為ストヲ殊ニ冀望セリ

此、ニ記シタル諸件々ハ纒カニケ月間馬ニ騎シ巡
監為シタル際ニ於テ見聞セル數條ヲ記載為シタル
モノナリ而シテ其ノ時日甚タ短カキカ故ニ此ノ如

トク綿密ニ状態形況ヲ記ス能ワザルモノナルト雖
トモ只日本士官ノ大ナル介助ニ因テ此ノ一書記ヲ
作スコトヲ得タリ

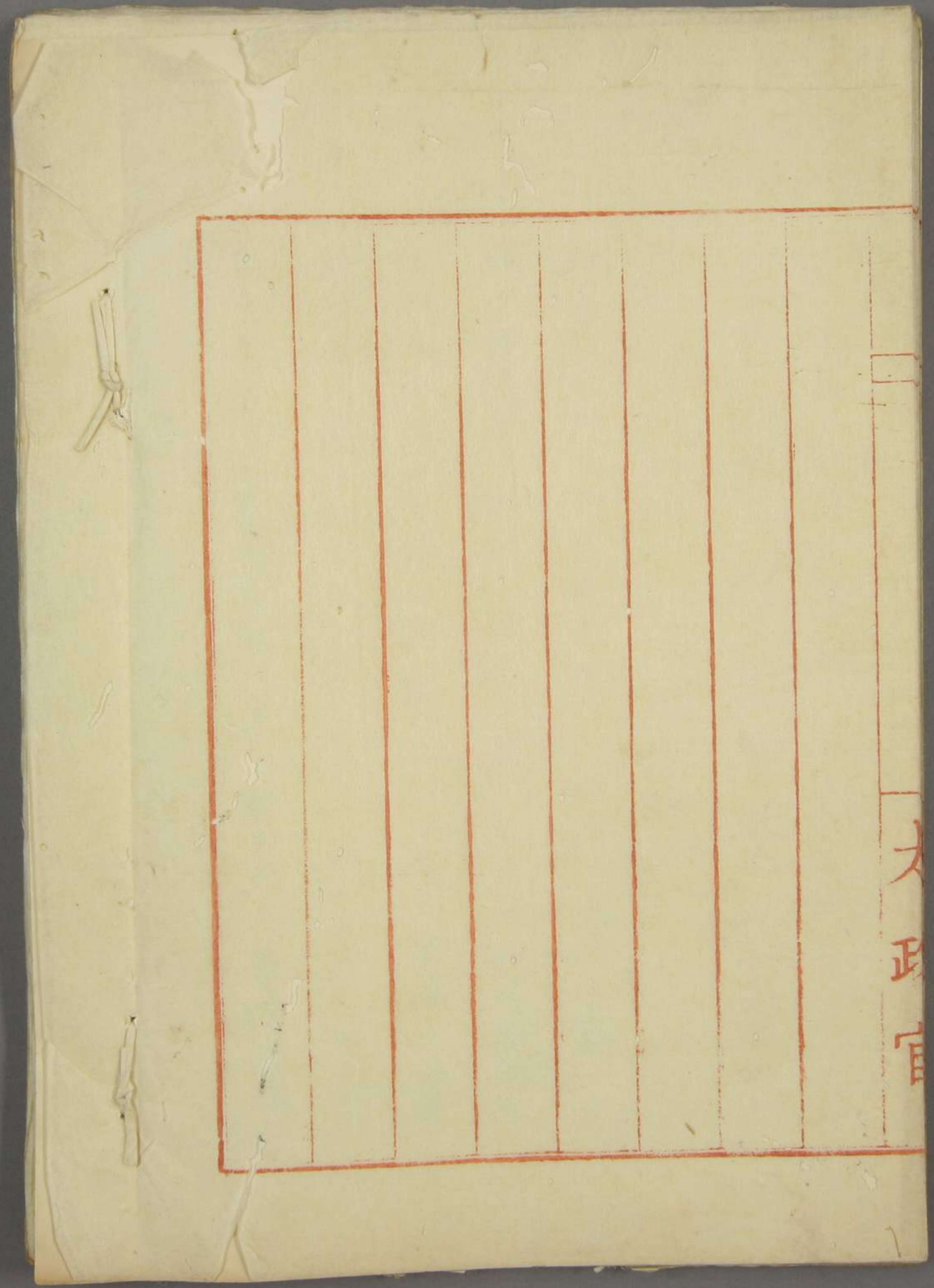
此ノ行ハ時日ノ短カキヲ以テ全島ノ地形ヲ察シ及
瑣末ノ適當ヲ考ルニ遑アラズ然レモ札幌府ノ互市
ヲ盛大ニ為シ羈旅ノ道程ヲ便ナラシムル為メ溝渠
鐵路其ノ他道路ノコトニ於テハ
ヲレモ此ニ記載
為セリ故ニ将来閣下此ノ地ノ開墾ニ於テ改訂為

コトヲ要スルニ當テハ此ノ書ニ因テ其ノ費額ヲ大抵
ヲ知ルニ足ルベシ

余カ蝦州羈旅ノ間同行為シタル士官ノ懇切ナル周
旋ニ因テ此ノ探索ヲ容易ニ為シ得タルコトヲ閣下ニ
報知スルコトヲ望ム謹言

土玩師

エー、ビー、ワルフ、マイルド



大政官